



# 関西支部報

http://jac.or.jp/kns/

## 令和4年度 関西支部総会報告

宮野 章

令和4年4月20日(水)午後6時30分より浪速ビル東館地下1階会議室にて、令和4年度日本山岳会関西支部総会が開催されました。

初めに茂木支部長より、「支部長になって初めての総会となり、コロナ禍の中でもなんとか関西支部も楽しく元気になるようなことができないかとやってきた。しかし、例えば財務関係ではあと2年ぐらいで蓄えがなくなる可能性があり、いろいろな問題が山積している。会員皆様のご指導とご鞭撻を得てこれからも頑張りたい」との挨拶がありました。

令和3年度活動報告は拍手をもって承認されました。令和3年度会計報告後、会場から「本山寺山森林づくりの会」に参加したおり道具一式があったが、赤字ではそのようなことはできないのではないか、という質問に対して、斧田一陽理事より「本山寺山森林づくりの会で実際の活動をし、国の交付金を申請していただいている。それで道具類を用意してもらっている。関西支部から、本部の補助金を含めて3万円の収入がある」との回答がありました。金井監事から会計処理が適切であった旨の報告を受け、拍手をもって承認されました。令和4年度活動報告と令和4年度会計予算、いずれの議案も拍手をもって全て承認されました。

その後、会場を大阪梅田「大東洋」に移し、茂木支部長より挨拶があり、城隆嗣会員による乾杯の音頭で懇親会が始まりました。今井拓雄会員（関西学院大学山岳会会長）より、ゲストであるヴァイオリニストの眞田彩氏の紹介がありました。眞田彩氏は「ブラビシモ・クラシカ2001」において最優秀アーティスト賞に選ばれ、英国留学の経験を持たれております。演奏曲は家貴志康一『竹取物語』、リチャード・ロジャース『エーデルワイス』、パガニーニ『24の奇想曲』、岡野貞一『ふるさと』、サラサーテ『ツイゴイネルワイゼン』、葉加瀬太郎『情熱大陸』でした。

閉会の挨拶は、重廣恒夫元支部長より「コロナ禍のため3年予定が遅れているが、関西



写真提供：豊田哲也

支部90周年、日本山岳会120周年を迎える2025年、さらに先まで私を含めて努力していきたい、これからはますます活躍していただきたい」との挨拶がありました。

素晴らしい音楽とともに和やかなひと時を過ごせました。

**【参加者】** 新本政子、伊原哲士、今井拓雄、大津陸郎、岡田輝子、小黑節郎、斧田一陽、金井健二、金井良碩、瓦葺邦夫、清瀬祐司、小林又七、重廣恒夫、嶋岡章、城隆嗣、高木知子、辻和雄、豊田哲也、永井和、中島隆、中川和道、中久保忠伸、中村久住、中村三佳、野村珠生、野村哲夫、橋本圭之輔、水谷透、宮野章、茂木完治（総会のみ）魚津清和、久保和恵、黒田記代、宗實二郎、山田健 計35名

令和4年度 関西支部総会報告	1
関西支部設立90周年記念事業	1
宮野 章	1
茂木完治	4
支部山行報告	5
1 支部山行報告	5
2 山岳古道調査	11
3 ヒマラヤ登山塾	13
4 自然保護委員会活動報告	15
個人山行	15
会務報告	16
ルール目録	17
山行委員会行事案内(7月～9月)	17
スケッチ同好会	18
「山行ひろば」開催案内	19
自然保護行事案内(7～9月)	21
編集後記	22





## 関西支部設立90周年記念事業

茂木完治

### 海外の沢登り

世界の未踏峰が急速に減ってきています。とはいえ、溪谷や岩壁に目を向ければまだまだ未踏、未知のものはたくさんあるはずです。特に溪谷は、ジャングルや屹立する岩壁に隠れているため気付かれずに存在しているものは無数にあるでしょう。探検、冒険の対象としてこれから世界の岳人が溪谷に目を向ける時代がくるかもしれません。ヒマラヤやアンデス、ニューギニアなどには素晴らしい未知の巨谷が眠っています。それをぜひやりたいという方がいれば協力を惜しみません。そこまできなくても私たちも海外へ行く経験を積む必要があります。海外へ出かける体験をしてそれをバネに自分の山を広げてほしいと思います。

#### 1. 韓国の谷

朝鮮半島には白頭大幹という背骨のような山脈が南北に貫いています。韓国では北から雪嶽山(1708m)、五台山(1563m)と連なって南端の智異山(1915m)まで続きます。またこの山脈から派生した嶺南アルプスが南下し、プサン近くには加智山(1240m)などがあります。いずれも2000m以下の山々で、長くても1泊2日、ほとんどの谷が日帰りの谷で、日本ならば六甲、比良レベルです。

韓国の谷の魅力は、花崗岩の白くて長大な滑です。岩峰が谷に迫り山水画のような景色に圧倒されることもあります。春にはピンクのツツジが山を覆い、夏は黄緑の葉が目まぶしく、秋は紅葉の美しさが際立ちます。

- ・時期：2023年8月の7日間
- ・対象：(2022年末までに決定)
- ・定員：10名
- ・費用：15万円

・申し込み期限：23年3月末

## 2. 台湾の谷

台湾は九州ほどの大きさの島ですが、五岳と呼ばれる玉山(3952m)、雪山(3886m)、秀姑巒山(3805m)、南湖大山(3742m)、北大武山(3092m)を始めとして200を超える3000m峰があります。そこから流れ落ちる標高差3000mの谷は台湾では永らく立ち入ることすらタブーで、未知のベールに覆われていました。台湾の谷の踏査は1963年の関西支部隊による玉山の荖濃溪に始まり(関西支部報16号参照)、今までに台湾と日本の合同隊による巨溪の開拓は100本近くに及びます。現在では台湾は日本にならび沢登りが盛んな国になりました。

・時期：2024年5月(ゴールデンウィーク)7日間

・対象：1泊2日の谷(2023年10月までに決定)

・定員：10名

・費用：20万円

・申し込み期限：23年11月末

・参加資格：沢登り経験者(1泊2日以上沢登り経験者が望ましい。)

優先順位は支部会員(準会員、支部会友を含む)、日本山岳会会員の順とする。

・申し込み：先着順

・申し込み先：メール：yib03510@nifty.com

電話：080-3103-6770 茂木完治(もてぎかんじ)

# 支部山行報告

## 1. 支部山行報告

支部山行21-58 月例会(1月)  
「虎御前山～小谷山」

野口恒雄

1月9日(日)晴

寅年に因んだ虎御前山と戦国時代に築かれた砦や城跡を巡る小谷山の二山を登る。湖北は年末年始、寒波の大雪に見舞われたが、その後は天候に恵まれて里道に雪は残っていない。今日は好天で、穏やかな風も心地よい。

まずは虎御前山、中野町の矢合神社から登山道へ。視界に伊吹山の西面から金糞岳方面の山並みが入るも好天が災いして霞んでいるのが残念。ゆるやかな登りも三角点下のNTT鉄塔手前で傾斜を強めた管理道路を通して頂稜部上がる。最高点・信長陣跡につづく高みが山頂だ。広場になっていて木下秀吉陣跡と伝えられている。新年初登山ということで、リーダーからぜんざいを振る舞われた。雪がグスグスとなっている急な斜面を手すりのロープにも助けられて北登山口へ下りる。

北陸道のガードをくぐって小谷山登山口へ向かう。追手道入口から小谷山に取り付く。番所から上部は雪に覆われているが踏み跡もあり、旧跡の案内板を追いながら首据石、桜馬場、大広間と辿る。本丸跡では踏み跡にしたがい石垣下を回り込んで大堀切に出た。南尾根の最高点・山王丸跡からは六坊跡の清水谷分岐へ下る。頂上へ急な階段道は雪に埋まっていた難儀する。「大嶽まで○

m」の道標に励まされて山頂に到着す。

少憩後、南西尾根にて清水神社へ下る。時折



虎御前山224m 写真提供：岩崎しのぶ

眼下には、今朝登った虎御前山や琵琶湖に浮かぶ竹生島が望めた。スリッパに注意しながら、どんどん下る。福寿丸を過ぎた辺りで雪もまばらになり、大きな受水施設に突き当たって下りは終わった。

### 【コースタイム】

虎姫駅9:59～11:19虎御前山～12:20追手道入口12:40～14:31小谷山～15:40清水神社16:04～16:36河毛駅

### 【参加者】

黒田記代、岩崎しのぶ、薦田佳一、永井和、野口恒雄、池尻英明(虎御前山のみ) 計6名

支部山行21-61 雪稜シリーズ④  
「両白山地・法恩寺山」

中村三佳

1月15日(土)晴

当初は一泊二日で法恩寺山登頂の予定であったが、前



日までの大雪により日帰り山行に変更となった。また積雪量の多さから、法恩寺山のスキーリフトを利用して山頂を目指すことになった。

登山口となるジャム勝山スキー場に到着すると、登山服にワカン装備という



P1360からの展望 写真撮影：中村三佳

我々の姿に、「どこに行かれるのですか」と数人のスキー客に声をかけられた。ザックを担いでリフトに乗りぐんぐん高度を稼ぐ。風も無く穏やかな天気で、樹氷が気分を高揚させる。足元には、シュプールを描きながら楽しそうに滑っているスノーボーダーが見えた。リフトを二つ乗り継いで1245mまで上がり、ワカンを装着して準備を整え、目の前の尾根に取り付いた。

法恩寺山山頂までは、歩行距離にして1200mほど、高低差100メートルを尾根に沿って登るだけである。今日のはのんびりと周りの冬山景色を楽しみながら登り、下山は、麓の平泉寺白山神社まで、雪上を滑るように歩く気持ちの良い山行になるだろうと思っていた。

ところが、スタート直後から激しいラッセルに行く手を阻まれた。とにかく進まない。大腿までのラッセルに全く進まないのだ。リーダーと交代でラッセルをする。足を前に出しても沈むばかりで、膝で雪を崩し固めて進もうと思うのだが、わずかな距離しか稼げない。1m進むのも一苦労だ。傾斜が少し急になると、とたんに太刀打ちできなくなる。リーダーに「代わりましょうか」と声をかけられると、すぐに交代して頂く。2番手がどれほど楽かということを知った。天と地ほどの違いである。

分岐となるP1360でタイムオーバーとなり、そこを本日のゴールとした。法恩寺山山頂の展望槽が見え、周りには白化粧した山々の素晴らしい景色が広がっていた。ラッセルでほてった頬に、冷たい風が心地よかった。

下山もルート変更となり、リフトを利用してスキー場に戻るようになった。ラッセルしたトレースを下ると、一生懸命に自分の力で作った道がなんとも愛おしかった。

#### 【コースタイム】

ジャム勝山スキー場ファンタジークウッドリフト10:45～

13:50 P1360 13:55～16:00バラエティークウッドリフト

#### 【参加者】

江村俊也、深澤優子、中村三佳

計3名

#### 支部山行21-62 第4回関西のアルプス踏査 「加西アルプス」

上森文子

1月16日(日)晴

まだ暗いうちに自宅を出て、電車の中で真っ赤に昇る朝日を見ながら法華口駅に向かう。改札口を出ると正面に今日登る善防山が見える。風もなく気温も高く前日までの寒さが嘘のような暖かさで、登山口までの国道歩きで一汗かいた。登山口から雑木林の急登を15分ほど登るとウマ岩展望台に到着。善防山の登山口の名前には山城由来の名前がついており（東櫓・西回廊・本丸・大手門など）昔の山城を想像しながら岩場の登山道を歩き、三角点「山ノ上（南櫓）」に到着。木々の芽吹きを見ながら分岐、第2頂上を過ぎ、善防山山頂に到着。山頂は「善防師城址」という埋蔵文化財指定の史跡で、遠くは六甲山、妙見山など360度見渡せる気持ちのいい山頂だった。山頂にはパネルが設置されており山座同定しながら、休憩時間を過ごした。この登山道から見える岩場の山道、山の重なる風景は立派なアルプスだ。

その後、善防山と笠松山をつなぐ吊り橋に到着し渡り終えるとすぐに、急斜面の露岩の鎖場が登場。靴裏を岩に擦り付けながら慎重に鎖場を通過。笠松山の手前でも段差のある鎖場があり、浮石に注意して足場を探しながら登った。山頂展望台での密を避けるために山頂手前で昼食。展望台からの360度の眺めを満喫し、古法華自然公園へ下山した。公園に到着して後ろを振り返ると、斜面には黒く焦げた山火事の跡が。

公園内の古法華寺には色々な表情をしたお地藏様がたくさんおられた。その後岩場の道を上がり断崖に彫られた達磨大使を見つけて感動。断崖絶壁にどのようにして彫ることができるのか、気合いと信



断崖絶壁に彫られた達磨大師 写真撮影：上森文子

仰心だけでは無理だと思うのだが本当に不思議だ。

下山した播磨下里駅の駅舎(有形登録文化財)からウマ岩や今日歩いた加西アルプスがきれいに見えた。

**【コースタイム】**

法華口駅9:04~9:45東櫓登山口~10:17三角点山ノ上~10:56善防山~12:29笠松山~12:42自然公園分岐~14:02播磨下里駅

**【参加者】**

重廣恒夫、黒田記代、前田正彰、岩崎しのぶ、野村康、永井和、坂本明子、中山勝也、上森文子 計9名

薦田佳一、坂口和子、助川征、廣瀬健三、松村文子、池尻英明、金川清弘、小林三喜男、田頭夏子、淡野隆久、中田栄、播戸日出生、横山規江 計18名



雨森山山頂までもう一息 写真提供：魚津清和

**支部山行21-63 ゆるやか山行 歴史と文化をたずねて「雨森山」**

中田 栄

**1月20日(木)晴時々曇**

令和4年初のゆるやか山行は、雪がちらつく大寒の日生中央駅に、コロナに負けない平均年齢80才が集合。里山の集落見ながら15分ほど歩き、身体を温めて準備体操をおこなう。

10時半から登山開始、山深い道で鹿の鳴き声に驚きながら、緩やかな山道を登る。炭の材料になった中木の台場クヌギが、葉を落とした明るい林が印象的だ。

11時半頃雨森山山頂に到着。西には六甲山系、南には山裾の住宅団地や遠方の市街地、さらに遠くには大阪湾や金剛山系、北には愛宕山が望め、山頂は絶好のビューポイントの広場でした。生憎の雪模様の中で風をよけながらの昼食後、集合写真を撮る。

12時15分下山開始、枯葉での滑りと靴に付着した粘土に注意しながら知明湖畔に到着。龍化墜道を抜け、竜にたえられた急流を眼下に見ながら龍化吊り橋に着くも、老朽化の為残念ながら通行禁止。

13時半、やむなく引返し湖畔の西側を歩く。途中から国道の騒音の側道となり、予定していた対岸の道を恨めしい気に眺めながら、日生ニュータウンまで歩く。

予定変更の短縮コースで1時間早く14時半に日生中央駅に無事到着。雪がちらつくも日差しに恵まれたゆるやか山行でした。

**【コースタイム】**

日生中央駅9:40~10:14内馬場三叉路~11:32雨森山12:17~12:59地明湖畔~13:13龍化吊り橋~13:39深谷バス停~14:39日生中央駅

**【参加者】**

久保和恵、山内幸子、黒田記代、魚津清和、黒田守彦、

**支部山行21-70 第5回関西のアルプス踏査「比叡アルプス」**

永井 和

**2月13日(日)曇後雪**

比叡アルプスとは、比叡山の南側に派生する尾根の一つで、白川支流の無動寺川(地蔵谷川)の右岸尾根のことだ。京都府と滋賀県の府県境が走っている。京都の北山、東山、西山界隈でアルプスの名が付くのは、知るかぎりでは、この比叡アルプスのみである。ところどころで風化した花崗岩が白砂の尾根を形成しているのでその名が付いたのだと思われるが、100年前にすでに比叡アルプスと呼ばれていた。1924(大正13)年刊行の近畿登山研究会『近畿の登山』には、比叡山への登山道の説明において「地蔵谷を過ぎて一五町程にして右手に比叡アルプスの径を分ち」と記されている。

比叡アルプスに取り付くには、京都一周トレイルの途中から無動寺川に下り、支尾根をたどって主稜線にいたるルートが一般的で、われわれもそのルートをとった。午後から雨との天気予報であったが、11時30分頃から降り出した小雨がすぐにみぞれに変わり、昼食後には雨具を着用しなければならいほどになった。しかし、それでも一本杉に到着するまでは、まだ降雪量はましであったが、一本杉に着き、比叡山ドライブウエーに出ると、みぞれ雪はぼたん雪となり、かなり激しく降り始めた。計画では白鳥山、壺阪山を経由してJR湖西線の唐崎駅に下る予定であったが、雪が激しいので比叡山ロープウエーの延暦寺駅をめざすことになった。

雪のふりしきる中、杉の巨木が形づくる深い森をよぎ



っている  
参拝古道  
(かつて  
は七曲が  
りとよば  
れ、現在  
は東海自  
然歩道に  
指定され  
ている)  
を歩くの  
は、なか  
なか幽邃



一本杉 写真提供：重廣恒夫

な雰囲気であった。

### 【コースタイム】

銀閣寺道バス停8:57～9:26バプテスト病院～10:09瓜生山  
10:20～10:43比叡アルプス分岐～11:11P383コル～12:47  
一本杉～14:14明王堂下～14:35ケーブル延暦寺駅

### 【参加者】

重廣恒夫、薦田佳一、新本政子、岩崎しのぶ、前田正彰、  
黒田記代、野村康、永井和 計8名

支部山行21-72 ゆるやか山行 里山探訪2  
歴史と文化を訪ねて  
廃線「幻の大仏鉄道を行く」

横山規江

### 2月17日(木)晴

初めての参加者2名の紹介の後、加茂駅を出発。観光案内所で分かりやすいパンフレットをもらうと、深紅の機関車がわずか9年余りで廃止とある。何故？ 幻の大仏鉄道にますます興味がわいてきた。加茂駅横の赤レンガのランプ小屋、蒸気機関車が我々を出迎えてくれた。

次は観音寺橋台。現在の関西本線と並行している為、電車の撮影スポットとして時刻表がぶら下がっていた。竹林をしばらく歩いて草木に覆われた鹿背山橋台。ヨーロッパ風の重厚な石積みと城のような石積みが隣り合わせで文化の違いが面白い。唯一通り抜けできる梶ヶ谷隧道。そのプロポーションの良さから名付けられた赤橋。その数の多さと今なお残る堅固な遺構には驚かされた。

城山台公園でランチタイム。ここでゆっくりと案内標識を見て大仏鉄道9.9kmの歴史を再確認。JRの前身、関西鉄道(株)が名古屋から大阪進出目指した。明治31年加茂～大仏駅8.8km開通、名古屋方面からも大仏参拝で賑

わった。明治32年大仏～奈良1.1km延長、大阪鉄道乗り継ぎで便利に。明治40年皮肉な事に奈良は賑わうが大仏駅の利用客減少、さらに木津経由の平坦な路線ができ廃業！寂しい気もしたが少しはホッとした。何故なら、広軌への対応の急坂の黒髪山トンネルの技術は新幹線にも生かされたと知ったから。現在は道路拡張でとても高い橋に姿を変えていた。大仏鉄道唯一のトンネル見たかった。

昼食後は午前の田園風景から一変道路歩きに。幹線道路の下方の松谷川隧道は分かりにくかったがリーダーの地図読み宜しくたどり着いた。帽子、手袋、マフラーの離せない寒い一日だったが心は温かくホッコリ！大仏鉄道記念公園で解散して近鉄とJRに分かれ帰路に就いた。



「松谷川隧道」の案内板を見入る 写真提供：岡田輝子

### 【コースタイム】

加茂駅10:10～11:00観音寺橋台～11:20鹿背山橋台～11:40  
梶ヶ谷隧道～12:00城山台公園12:30～13:10松谷川隧道～  
14:50大仏鉄道記念公園

### 【参加者】

久保和恵、山内幸子、黒田記代、新本政子、上田典子、  
岡田輝子、黒田守彦、薦田佳一、田中昌二郎、野口恒雄、  
橋本圭之輔、松村文子、八田吉子、福山茂光、田頭夏子、  
淡野隆久、中田栄、播戸日出夫、横山規江 計19名

支部山行21-77 沢登り例会  
「金剛山 カトラ谷」

中久保忠伸

### 3月6日(日)曇

青崩道登山口に集合、青崩道を登りセトを経由してカトラ谷出合いへ下る。ここ数日の暖かい気分で沢沿いも凍結がない中をアイゼンなしで沢沿いに進む。案の定、核心部の滝は氷瀑していないものの左岸のルートはアイスバーンとなっており、ここはアイゼンを装着して登る。やがて4月になるとニリンソウが咲き誇るお花畑に到着



する。15分ぐらいで山頂到着して金剛山おなじみのライブカメラにおさまり太尾道を下山する。



お花畑手前 写真撮影：中久保忠伸

**【コースタイム】**

青崩登山口8:49～10:10セト～10:25カトラ谷出合～11:36お花畑～11:54山頂広場12:23～13:00太尾分岐～14:00登山口

**【参加者】**

上森文子、鷺本晴香、関戸京子、立野里織、豊田哲也、後藤健治、中久保忠伸 計7名

**支部山行21-80 道迷い講習会**

**「読図、コンパス操作を学ぶ」考える登山の面白さ**

青山千彰

3月12日(土)曇

かつて、登山と言えば、地図、コンパスが必需品でしたが、GPSやスマートフォンにあるアプリケーションソフトの登場で、登山のスタイルが大きく変わってきました。

道迷いを少なくする立場からは、歓迎すべき技術革新ですが、多くの人々がこれだけを頼りにすると、地図から情報を読み取る技術、頭の中に山岳のイメージを作る能力は、当然退化していきます。気がつくと、地図、コンパスが全く使えない、機器能力に依存した範囲でしか、ナビゲーション対応できなくなるハイカーが登場することが心配です。

山、登山道は自然の中にあるのですから、多様な変化の世界です。嵐によって、倒木が道を塞ぎ、道路が崩壊します。マイナーな場所では数ヶ月で植生が道を覆ってしまいます。川が増水して徒渉しなければならなくなるかもしれません。GPSを持っていても、温度が下がると、バッテリーの消耗速度が増し、機能しなくて道迷いの原因になるかもしれません。

GPSと共存して読図能力も磨いていく場合、従来の地図、コンパスを使用する能力をつけるには、訓練が必要

です。この習得に時間がかかることが、GPSだけに傾いていく原因となっています。

今回の講習会は、山行中、どのようにして読図するのか、そして、コンパスで、地図から登山道の方向をどのように取り出し、実際の登山道上で、正しい方向を得るのか、12名の参加者はその方法を訓練しました。

訓練を開始後、かなりの人がコンパスでのナビゲーションに戸惑っていましたが、直ぐに慣れ、その有効性を理解していくようになりました。最後に、ヤブ山を30分ぐらいで突き抜けていく訓練では、ヤブと悪戦苦闘しながら、目的地にピンポイントで到達できました。皆さんの満足した顔つきが印象的でした。

**【コースタイム】**

道場駅10:00～東山橋11:26～コル12:50～風吹岩分岐13:48～風吹岩14:29～尾根下降点14:35～分岐16:00～東山橋16:34～16:55道場駅

**【参加者】**

青山千彰、黒田記代、中久保忠伸、小黒節郎、野村康、永井和、深澤優子、池尻英明、水谷透、辻和雄、西川和子、茂木完治 計12名

**支部山行21-81 第6回関西のアルプス踏査**

**「和気アルプス」**

中村三佳

3月13日(日)晴

人気があるという和気アルプスを初めて縦走する。JR和気駅から金剛川に沿って東へ、橋を渡って和気中学校裏手の登山口へと向かった。準備体操をして出発すると、すぐに急登となった。七曲、馬の背へとザレ道を登って行く。

縦走路裏銀座コースに合流し、展望所手前でオーバーハングのある大きな岩壁が見えた。多くの登山家を生み出した有名な白岩様という岩場だそう。もちろん重廣リーダーもその中のひとりで、学生時代に通いつめ、クライミングの腕を磨いたと言う。帰りの切符を買うのに小銭がつかめなほど練習したそう。56年ぶりに来たという重廣リーダーに、「あの白岩様からチョモランマやK2へ繋がったと思うと感慨深くありませんか」と尋ねると、「昔のはなし」とクールな答えが返ってきた。急坂を登り詰め、神ノ上山に到着。山頂からは、和気の町がよく見えたが、春霞なのか遠くはすっきりしていなかった。

昼食後、岩場の道を慎重に下る。アップダウンを繰り返しながら、ジャンダルムを巻き、涸沢峰の分岐から竜

王山へ、分岐に戻り返して穂高山を越え、和気富士へと向かった。和気アルプスには、ザイテング



和気アルプス「白岩様」 写真提供：重廣恒夫

ラート、カニのタテバイ、劔岳ならぬ劔峰など、北アルプスの名前があちらこちらに付けてある。ジャンダルムは少し大きいだけの岩、穂高山は標高200mであったが、そうしたネーミングだけで楽しくなる。人気がある理由のひとつであろう。

和気富士に到着すると予定時間より早かったので、重廣リーダーから、ツェルトで負傷者を運ぶ方法を教わった。いざという時、あたふたしないために、日頃から緊急時の意識を持つ大切さを学んだ。

最後の急坂を下り、赤鳥居をくぐると、まもなくJR和気駅に戻り着いた。4月下旬かと思われる陽気の山行であった。

#### 【コースタイム】

中学校裏手登山口9:40～10:49展望所～11:15神ノ上山11:47～12:22ジャンダルム～12:51竜王山13:07～13:22穂高山～14:28和気富士15:30～15:39赤鳥居下山口

#### 【参加者】

重廣恒夫、黒田記代、前田正彰、岩崎しのぶ、岡野武司、野村康、永井和、深澤優子、関戸京子、井川浩彰、中村三佳 計11名

支部山行21-83 月例会(3月)

信仰の古道「庄兵エ道」を歩く

竹中雅幸

3月21日(月)晴

近鉄生駒駅に集合し、まずは庄兵エ道の出発地点となる宝山寺を目指す。配布資料によると、古代より生駒の山中に存在したものの修験信仰の衰退とともに廃道になってしまった修行道を、江戸時代に鬼取村の庄兵エさんが復元したのが「庄兵エ道」だそうだ。一度は復活した庄兵エ道だが、自動車道の開通により歩く人が減り再び荒廃してしまう。現在歩かれている道は生駒民俗会によ

って平成15年より整備され、二度目の復活を遂げた道とのこと。

今回は本部からの参加者5名を迎え、交流登山も兼ねて途中の広場で自己紹介を行う。宝山寺は役行者が修行したという般若窟が背後にそびえ大迫力。そこから細い路地を進み、山道に入る。藪っぼいがまだ3月とあって薄く、歩きやすい。教弘寺周辺は道路工事のため迂回路を歩く。舗装路に出て神田川を渡り、再び山道へ入ると標石を見かけるようになる。中には地面に横倒しになっているものもあり、宝探し気分が楽しめる。四叉路から四等三角点のある向井山を往復し、分岐に戻って昼食とする。食後も標石を見つけるたびに解説を試みながら歩き、やがて棚田に出るとすぐ千光寺に到着し庄兵エ道は終了となる。

千光寺からは地元で語り部活動も行う山西会員の解説付きとなり、贅沢な時間を過ごすことができた。鳴川沿いの古い里道を通り、元山上口駅にて無事解散した。

以下、本部青年部の松尾みどりさんよりコメントをいただきました。

「念願かない、関西の方々と山に入る機会を得ました。ツリークライミングで得た技術は大変勉強になり、又同

世代の竹中さんやドルポBC中野さんの、人生や山を深く味わうような生き方に触れ感銘を受けました。



千光寺門前 写真提供：岩崎しのぶ

月例山行は、青森出身の私にとって見るもの全てが新鮮で驚きに満ちたものでした。私の母は皆さんのような体力はありませんが、素晴らしい生駒神社や千光寺と一緒に再訪したいと思います。」

#### 【コースタイム】

近鉄生駒駅9:00～9:11山中広場9:30～10:04宝山寺10:25～11:03教弘寺～11:50第1道標11:58～12:45鳥見零時・三角点13:15～13:31千光寺14:18～15:15元山上口駅

#### 【参加者】

黒田記代、新本政子、黒岩敦子、薦田佳一、高木知子、田頭夏子、竹中雅幸、永井和、山西和美、岩崎しのぶ (以下首都圏)中谷康司、湧嶋満、松尾みどり、三井賢治、



吉井修、会員外3名

計18名

支部山行21-86 ゆるやか山行 里山探訪2  
「京都 背割堤・鳩ヶ峰・石清水八幡宮」

辻 和雄

3月31日(木)小雨

春雨が少しパラツク中で、なんと総勢35名の参加者で駅前を出発する。出発してすぐの「さくらであい館」にて今日の山行説明と準備体操の後、約1.5kmの背割堤に咲くソメイヨシノ(約220本)の桜並木を散策する。桜並木は素晴らしく、雨のため観光客も少ない中で、景観を我々のグループで独占できた。

御幸橋下にて雨宿りを兼ねて、昼食。その後安居橋(別名たいこ橋)で集合写真を撮り、二の鳥居を過ぎ、「ひだまりルート」から三の鳥居への階段を上ると、石清水八幡宮本殿への道となる。本殿横を過ぎて、男山展望台へ行く。桂川、宇治川、木津川の3つの河川の向こう側に京都市内が広がり、西は天王山、東は比叡山や宇治の山々を見渡せる絶景名所となっている。

麓の「京阪石清水八幡宮」駅に直結した「参道ケーブル」を使えば、容易に山上へ行ける。山上には、発明王エジソンが八幡の竹を使って白熱電球の実用化に成功したことを顕彰した記念碑がある。

下山は、せせらぎルートを辿り、興聖谷願掛け石不動尊を見学し、男山レクリエーションセンターにてトイレ休憩を取った後、二等三角点のある鳩ヶ峰を踏む。何時しか雨も止み、「こもれびルート」を経由して、一の鳥居前にて解散となる。

【コースタイム】

京阪石清水八幡宮駅9:34~12:32安居橋~13:01石清水八幡宮本殿~14:34鳩ヶ峰~15:15一の鳥居前

【参加者】

久保和恵、山内幸子、黒田記代、新本政子、岩崎しのぶ、上田典子、岡田輝子、黒田守彦、坂口和子、田中昌二郎、辻和雄、野口恒雄、橋本圭之輔、前田正彰、松村文子、松村竹次郎、森沢義信、山崎詮、山下政一、魚津清和、小林又七、福山茂光、八田吉子、青木昭、池尻英明、金川清弘、黒岩敦子、小林三喜男、高木知子、田頭夏子、中田栄、播戸日出生、山西和美、横山規江 西川和子

計35名

## 2. 山岳古道調査

支部山行21-64 第2回古道調査  
「葛城修験の道」神福寺跡第2経塚

豊田哲也

1月22日(土)晴

駅より西念寺へ。観音堂にて神福寺から移設の十一面観音と役行者像を拝観。堂前の手洗石と灯籠の「葛城二之宿」の文字が神福寺より来た証拠。舗装路の坂道を登り、標識を地道へ入ると柚畑の中に神福寺跡第2経塚があった。近くの「日露記念？」碑は西ノ庄堡塁の名残か？ 落ちていた柚を齧りながら歩き易い地道を慈眼院へ。二之宿慈眼院は荒れ果て、本堂安置伝役行者作十一面観音は格子の間隙より覗くも定かならず。横の地藏堂はかつての観音堂で天正年間作の地藏尊が祀られていたが、屋根は落ち朽ち果てている。隣の小さな神社も、集落の氏神と思われるが狛犬が片方しかいなかった。

次に車道を猿坂峠へ。峠は見晴らしも良くベンチもある。峠から甲山まではよく整備された歩き易い登山道だ。甲山に着くと360度の展望。和歌山市内、友ヶ島、関空、札立山方面まで見渡せる。地元の方がボランティアで整備されており、日本の山の展望人気投票第4位と自慢されていた(誰に聞いたんや！)。

昼食後、車道から横手へ。三輪神社へ着くと、直接甲山からの登山道があることが分かった。三ノ宿横手にはかつて八王子社があったが、廃絶しここに祠が残るのみ。横手集落より近畿自然歩道を石倉谷へ向かう。八王子峠への分岐の所が旧八王子社跡。それらしき石垣の跡があった。

八王子峠にはルリビタキの森と書かれた展望台があった。藤原峠を過ぎ孝子の森西尾



神福寺跡第2経塚にて 写真提供：永井和

根展望コースへと入る。犬飼谷峠から金輪寺に下り、三ノ宿金輪寺にて本尊釈迦如来像の前立像を拝観した(本尊は60年に一度の御開帳)。

終日良い天気で歩き易い道だった。

【コースタイム】

西ノ庄駅9:46～10:54第2経塚～11:19慈眼寺～12:02甲山～  
12:53三輪神社～13:35金輪寺～14:45孝子駅

**【参加者】**

黒田記代、永井和、山内幸子、新本政子、重廣恒夫、深澤優子、野村康、久保和恵、岩崎しのぶ、豊田哲也、井川浩彰、中川委紀子 計12名

**支部山行21-73 第7回古道調査  
「葛城修験の道」入江宿桜地蔵  
第4経塚信解品**

永井 和

2月19日(土)曇後雨

10月末の第3経塚の調査では、主稜線から墓ノ谷行者堂に下り、六十谷駅に向かったが、中野榮治氏の推定によると、第3経塚から第4経塚に向かう修験者は滝畑川に下り、熊野街道(現在阪和線と阪和道路が走っている)に出たあと、根来寺に向かったとされる(第4経塚は、現在は境谷川と山中川の合流点あたりに位置している)。

今回の調査ではJR紀伊駅から墓ノ谷下降点の近くまで戻り、そこから落合と滝畑の両集落を経由して第4経塚に向かい、さらに境谷川をさかのぼり、郷ノ峠を越えて根来寺に近い安上に出るコースを選択した。

どんよりの曇り空のもとJR紀伊駅を出発した。天気予報は午後から雨だったので、



入江宿第四経塚にて 写真撮影：永井和

途中から山中溪駅で帰阪することも頭にいれつつ、京奈和道路の北の登山口をめざした。トンネルで高速道路を越え、地蔵山から雲山峰に向かうハイキングルートに入った。途中三角点(弘西)に立ち寄り、地蔵林道への下降点の手前で雨が降り出した。滝畑の春日神社で昼食をとり、第4経塚をめざしたが、境谷集落に向かう舗装路から少し登った山腹に経塚があり、「文安五年八月十五日」と記されていた。文安五年は1448年にあたり、現在知られている葛城修験の道の経塚の中ではいちばん古いものという。

心配したほどには雨脚は強くならず、境谷から先のルートもほとんどが舗装林道なので、予定通り安上まで歩

いた。

**【コースタイム】**

JR紀伊駅9:10～9:51登山口～10:31三角点弘西(276.2m)～11:18地蔵林道下降点～11:50落合～12:30滝畑13:07～13:29第四経塚～13:46境谷～14:49郷ノ峠～15:29那賀安上バス停

**【参加者】**

黒田記代、永井和、新本政子、重廣恒夫、深澤優子、野村康、岩崎しのぶ、中川委紀子、山西和美 計9名

**支部山行21-78 第8回山岳古道調査  
「葛城修験の道」七越峠経塚山  
第11経塚宝塔品**

新本政子

3月6日(日)曇時々晴

早春の父鬼集落より葛城修験と西国三十三箇所巡礼の道を、経塚山から槇尾山施福寺へと辿った。父鬼では八坂神社と行所の観音寺に立ち寄り、父鬼川に乳滝、道を挟んで乳滝不動尊、役行者像を拝し、七越峠登山口より大岩林道を経て丁石道をひたすら峠へと登りつめた。

泉州と紀州の国境の七越峠には茶所跡の碑や、道標、地蔵尊、西行の歌碑等がある。峠より経塚山を往復した。経塚山三角点、七興寺跡の標識と砂岩や礫岩を積み重ねた第11経塚、経塚山頂を確認。周辺を覆う紅い実を付けたミヤマシキミの群生が美しく印象的であった。風花が舞う寒い七越峠に戻り、宿山の金剛童子、七大竜王社、三国山、父鬼三角点を巡る。道沿いにある航空路監視レーザー塔等の施設が古道には似つかわしくなく無粋。

牛坂入り口より千本杉峠を経て檜原越えの古道に丁石を数え辿りついた施福寺は、コロナ禍の為閉門し閑散としていたが、満開の白梅・紅梅が疲れを癒してくれた。本堂向かいの石段上に「槇尾山経塚跡」の標識があったが、

これは近頃和泉市による物との事。我々だけで満員となった17時の最終バスにて帰途についた。



経塚山第11経塚にて 写真提供：永井和

**【コースタイム】**



父鬼バス停9:13～10:08七越峠登山口～11:26七越峠～11:57第十一経塚～13:08七越峠～13:33三国山～14:15千本杉峠～15:52施福寺～16:26槇尾山バス停

【参加者】

黒田記代、永井和、重廣恒夫、深沢優子、野村康、岩崎しのぶ、薦田圭一、山西和美、中川委紀子、新本政子

計10人

支部山行21-84 第9回山岳古道調査

「葛城修験の道」神野山第12経塚提婆達多品、向いたワ第13経塚歓待品、光滝寺大14経塚安楽品  
新本政子

3月27日(日)晴後曇

今回は第12経塚、第13経塚、第14経塚を巡る。JR笠田駅から文蔵の滝までタクシー。大日大聖不動明王の石碑に迎えられ滝行場へ。パワースポットの感あり。神野集落までコンクリートの急な登りが続く。集落は吊柿の里で有名だが春とあって静寂。役行者緑の寺社に参拝し、七越峠に通じる舗装林道で府県境稜線に出る。

736.7mの三角点を踏み、快適な登山道を畑山、神野山を越え稜線に合流したその傍らに第12経塚があった。さらに尾根筋を燈明岳(東の燈明ヶ岳)へ。山頂には役小角参籠庵跡の祠、石碑があった。

山頂から参拝者が絶えないといわれる堀越齋観音へは西へ下る。堀越の里は視界が開け素晴らしい展望。観音堂、護摩堂、サザンカの老樹は特筆に値する。第13経塚へは東に舗装林道を進み、分岐から回り込むように南をとると府県境稜線に合流する。分岐に案内板があり、進むとP750m辺りに大日如来の石碑あった。分岐に戻り光瀧寺に向かう舗装林道をひたすら歩く。途中で白花のショウジョウバカマなどわずかな山野草に癒されながら、

やっとの思いで光瀧寺につく。第14経塚は境内をくまなく探したが見当たらず、それら



東の燈明岳にて 写真提供：永井和

き小さな祠をそれとみなし光瀧寺を後にした。

【コースタイム】

文蔵の滝9:23～10:13神野阿弥陀堂～10:53神野分岐～

11:55神野山～12:12第12経塚12:30～12:49燈明岳～13:58第13経塚～15:34光瀧寺～16:11滝畑ダムバス停

【参加者】

黒田記代、永井和、新本政子、深澤優子、野村康、岩崎しのぶ、中川委紀子、薦田圭一、山内幸子、久保和恵

計10名

### 3. ヒマラヤ登山塾

支部山行21-67 第4回ヒマラヤ登山塾

「白き氷河の果ての山K2」

中谷康司

1月30日(日)

ヒマラヤ登山塾4回目は、1977年、世界第2の高峰K2(8611m)の日本人初登頂(世界第2登)だった。ヒマラヤ全体の地勢からカラコルム、バルトロ山群へと順を追った解説や、K2に関する登攀史の紹介は、ヒマラヤで最も危険な山くらいのイメージしか持っていなかった私にも十分な理解を与えてくれた。

印象的なお話は、各地から集まったポーターの雇用から始まる大規模なキャラバン、軍隊の師団駐屯地のような巨大なBC配置図、第2次アタック隊となった森田勝隊員の下山や頂上直下での中村省爾隊員のクレバス墜落(それを重廣さんが写真にとっているところ)であり、また連続と続いているK2会(年1回の親睦会)の話だった。いずれも重廣さんの『エベレストから百名山へ』(光文社新書)に収録されている話であるが、ご本人の口から直接伺うとより味わい深いものだった。

登攀の様子は、ルート図に赤線を伸ばしながら、写真を交えて紹介された。凄いことはわかるが、私の乏しい経験では必ずしも現実味をもって受け止めることは出来なかった。後日、記録映画『白き氷河の果てに』(海工房ショップ)を見て、この高度で、この角度、一体どうして登れるのか!と改めて驚きをもって受け止めた次第である。8000mを越えた高所で16mmムービーを背負って登頂し、その瞬間をきっちり撮影してくるのだから、スーパーマンとしか言いようがない。“遠のいたヒマラヤを少しでも身近に”という想いが「ヒマラヤ登山塾」企画の趣旨と聞くが、ある意味、よりかけ離れたものであるようにも感じられた。しかし、リアリティーを持って捉える中で、自分に何が出来るのかを探っていければよいのではないかと今は受け止めている。

当初、オンラインでの開催を希望していたが、今は毎月関西に通うことに重要な意味を見出して参加させてい

ただいている。

### 【参加者】

新本政子、池尻英明、魚津清和、岡田輝子、小黑節郎、久保和恵、黒田記代、薦田佳一、助川征、豊田哲也、中村久住、中村三佳、野村康、三輪文一（以上関西支部）、中谷康司、松尾みどり（以上本部）、他7名 計23名

支部山行21-76 第5回ヒマラヤ登山塾  
「ヒマラヤ鉄の時代 ラトック I 峰」  
小黑節郎

2月27日(日)

標題の「ヒマラヤ鉄の時代」にふさわしい内容に圧倒された2時間だった。計画の趣意には「精鋭メンバーによるカラコルムにおけるビッグウォーククライミングを標榜する」と記載されており、魅力的な岩峰が屹立し注目されたラトック山群において、当時世界的にみても最高レベルのヒマラヤ登山だったことが実感できた。

ラトック I 峰は1979年日本隊に初登頂されたものの、第2登が2018年と約40年後にようやく達成されていることである。いかに登頂自体が困難な山であるかを思い知らされる。ヒマラヤにおいては初登頂を競う時代から困難なバリエーションルート挑戦へと変化し、1970年のアンナプルナ南壁のイギリス隊の成功を筆頭に数々の新ルートが登られていた。日本隊では山岳同志会によるジャヌー北壁が1976年だが、大岩壁の登攀による7000m峰の初登頂であったラトック I 峰の成功は鉄の時代においてホームラン級の出来事だったと思う。

1979年は長谷川恒夫がアルプス3大北壁冬季単独登攀を成功させた年でもあり、スポーツ新聞一面に大きく掲載されたのを記憶している。日本人登山家が活躍するなか、自分の人生にとっては転換点の社会人になった年だった。高校から大学と登山に情熱を注いだ海外遠征の機会はなく、大学卒業旅行のヒマラヤトレッキング（ネパール～パキスタン）でネパールの6000m峰を目指したが、フライトトラブルなどで時間切れの消化不良となっただけで、卒業～就職～結婚を経て、山とは縁遠くなり長いブランクとなった。

高齢者となった現在、ヒマラヤ登山塾は自分なりの「バイオニア精神」を呼び起こして新たなチャレンジへと駆り立てる存在となっている。関西支部90周年事業として支部、会員それぞれにおいてのチャレンジが実現するようお願いしてやまない。

それにしても重廣さんが撮影の為に2回も登頂された

という超人的行為を知りびっくりでした。

### 【参加者】

新本政子、岡田輝子、小黑節郎、賀集信、加藤芳樹、黒田記代、辻和雄、豊田哲也、中川委紀子、中村久住、野村康、深澤優子、三輪文一、茂木完治（以上関西支部）、坂井広志、中谷康司（以上本部）、吉井修（首都圏）、他8名 計25名

支部山行21-82 第6回ヒマラヤ登山塾  
「第2次大戦後初開放のチョモランマ北壁」  
重廣恒夫

3月20日(日)

中国はヒマラヤにおいて最も多くの高峰を持つ国である。世界最高峰チョモランマ（エベレスト）を初め、世界第2の高峰チョゴリ（K2）など8000m峰14座のうち8座がある。世界中のヒマラヤニストにとって中国国内での登山活動は憧れの的であった。

1976（昭和51）年、毛沢東の死去に伴い「文化大革命」が終結した。鄧小平政権は「四つの近代化」を進め、その中に「高峰の開放」も含まれていた。56（昭和31）年に中国登山協会が設立され、60（昭和35）年には初めてチョモランマ北面からの登頂に成功した。

79（昭和54）年、中国は国際的なスポーツ登山の発展及び各国登山家の強い要望に応え、外国人に開放する山域を発表した。その中にはチョモランマも含まれており、7月には日本山岳会に80（昭和55）年の登山許可がおりた。この登山を契機に日本山岳会は、88年チョモランマ交差縦走、90～92年ナムチャバルワ、95年マカルー東稜へ向かうことになった。

80年2月22日に日本を発った登山隊は空路北京・成都を経てチベット自治区のラサに入り、3月6日夢にまで見たチョモランマのベースキャンプに到着した。眼前に目的の北壁が立ちはだかっていた。24日、北壁直下に前進基地を設営しルート工作が開始された。4月25日にはホーロンバイン・クーロワールを8450mに到達し、5月2日からアタックを開始したが、雪崩で宇部隊員を失い失敗に終わった。その後体制を立て直し、10日尾崎隊員と共に頂上を目指して8230mの最終キャンプを出発した。非常に難しいルートではあったが、21時に8848mの頂に立った。太陽が西の彼方に沈む一瞬、眼前のマカルーが赤く燃えた。

帰路8600m付近でビバーク、54ピッチの懸垂下降を終えて12日零時20分、皆の待つ前進基地に降り立った。

**【参加者】**

新本政子、池尻英明、魚津清和、岡田輝子、小黒節郎、賀集信、黒田記代、竹中雅幸、薦田佳一、辻和雄、豊田哲也、中川委紀子、中久保忠伸、中村三佳、野村康、深澤優子、茂木完治(以上関西支部)、中谷康司、松尾みどり(以上本部)、吉井修(首都圏)、他1名 計21名

参加者：猪川誠、工藤貴士、斧田一陽、倉谷邦雄、黒山泰弘、武田壽夫、中川義行、宮本廣 計8名

◆日時：2022(令和4)年3月3日(木)9:30～15:00

気象：晴(気温6℃)

活動エリア：45林班ろ-03

活動内容：地域環境保全(里山林保全)

参加者：猪川誠、斧田一陽、倉谷邦雄、武田壽夫、竹歳三喜子、中村賢三、中川義行、宮本廣、山田真也 計9名

**4. 自然保護委員会活動報告**

令和4(2022)年01～03月

**「本山寺山森林づくりの会」活動報告**

武田壽夫

◆日時：2022(令和4)年1月3日(月)9:30～15:00

気象：晴(気温6～7℃)

活動エリア：45林班に-01

活動内容：地域環境保全(里山林保全)

参加者：斧田一陽、小櫃徹夫、金井良碩、倉谷邦雄、黒山泰弘、河野直子、武田壽夫、中川義行、中村賢三、宮本廣、茂木完治、山田真也、(体験)中西未来 計13名

◆日時：2022(令和4)年1月16日(日)9:30～15:00

気象：晴(気温3～4℃)

活動エリア：45林班ろ-04

活動内容：地域環境保全(里山林保全)

参加者：猪川誠、内海宏一、大本孝子、工藤貴士、倉谷邦雄、黒山泰弘、竹歳三喜子、武田壽夫、中川義行、湊亮、宮本廣、山田真也、山本國夫 計13名

◆日時：2022(令和4)年1月27日(木)9:30～15:00

気象：曇(気温2～3℃)

活動エリア：45林班ろ-04

活動内容：地域環境保全(里山林保全)

参加者：猪川誠、内海宏一、斧田一陽、倉谷邦雄、武田壽夫、中川義行、中村賢三、山田真也 計8名

◆日時：2022(令和4)年2月13日(日)9:30～14:00

気象：曇(気温0～1℃)

活動エリア：45林班ろ-05

活動内容：地域環境保全(里山林保全)

参加者：斧田一陽、倉谷邦雄、黒山泰弘、武田壽夫、中川義行、宮本廣 計6名

◆日時：2022(令和4)年2月20日(日)9:30～15:00

気象：曇(気温0～1℃)

活動エリア：45林班ろ-03

活動内容：地域環境保全(里山林保全)

◆日時：2022(令和4)年3月20日(日)9:30～15:00

気象：晴

活動エリア：45林班に-03

活動内容：地域環境保全(里山保全)

参加者：斧田一陽、倉谷邦雄、黒山泰弘、武田壽夫、中川義行、宮本廣、山本國夫 計7名

**東お多福山草原保全再生研究会参加保護活動報告**

田島聖子

4月6日(水)

本年度最初の活動には、各団体から計38名が集まり、風もなく暖かい小春日和の下、10時より作業開始。刈払機3台と新しく購入した電動バリカン2台、および手刈りによるコドラート2、3の刈り取り作業・集積、並びにコドラートの杭の更新作業をした。山上および下保管庫の整理・整頓作業をする。作業は順調に進み、いつもより早く13時半に終了。下山。

**【参加者】**

斧田一陽、田島聖子 計2名

**個人山行(2022年1月～3月)**

安全委員会に提出された個人山行登山計画書

1月4日 六甲山 苧川  
 1月7日～8日 八ヶ岳 西天狗岳・東天狗岳  
 1月8日 六甲山 芦屋川・道畦谷  
 1月9日～10日 三ツ峠山  
 1月21日～23日 八ヶ岳 赤岳  
 10月24日～25日 大普賢岳地獄谷 アイスクライミング

2月4日	春日井三山	3月17日	京都北山・金毘羅山
2月11日	伊吹山	3月25日	春日井三山
2月14日	御在所岳 藤内壁アイスクライミング	3月26日	湖北 己高山
2月21日	大普賢岳地獄谷アイスクライミング	3月27日	湖南 鶏冠山～竜王山
2月23日～24日	大峰 行者還岳		
2月26日	鈴鹿 佐目子谷～銚子ケ口～イブネ		
2月26日	八ヶ岳 阿弥陀岳		
3月12日～13日	西穂高岳		



## Room目録(2021年10月～2022年3月)

10月13日	90周年事業委員会	11月7日	支部三役会議	12月8日	90周年出版打ち合わせ
10月20日	財務委員会	11月12日	郵便物受け取り	12月15日	支部報発送作業
	支部役員会	11月17日	支部役員会		支部役員会
10月23日	事務作業	11月28日	事務作業	12月21日	支部三役会議
10月31日	事務作業	12月1日	山行ひろば	12月22日	山行委員会

1月4日	財務委員会	2月19日	本部提出書類打ち合わせ	3月16日	支部報整理作業
1月9日	財務委員会事務	2月22日	古道調査打ち合わせ		役員会
1月12日	役員会	2月23日	事業報告書打ち合わせ	3月20日	事務整理
1月17日	登山文化研究会		財務打ち合わせ		事務作業
1月23日	資料調査(茂木)	3月3日	関西支部設立90周年事業	3月23日	支部報発送
2月1日	財務委員会準備(岡田)		委員会	3月28日	支部決算報告作成作業
	財務委員会	3月9日	三役会議	3月30日	支部決算報告作成作業
2月9日	役員会	3月11日	発送物届		山行委員会
2月13日	財務事務(岡野)	3月16日	配達物受け取り		山行ひろば

## 2022年7月～9月 山行委員会行事案内

### 22-23 第10回関西のアルプス踏査

「上郡アルプス」

日 時：7月17日(日)

集 合：JR山陽本線上郡駅 9:50

コース：上郡駅～大鳥山～岩木山～大鳥山～生駒山～  
上郡駅

地 図：2.5万分の1「上郡」

備 考：雨天決行(但し、当該地域に6:00に警報等が  
出た場合は中止)

申込み：7月10日(日)迄(担当：重廣恒夫)

### 22-24 第14回山岳古道調査

「葛城修験の道」犬鳴山第8経塚、和泉葛城山第9経塚、  
牛滝山第10経塚

日 時：7月23日(土)

集 合：南海電鉄岸和田駅前牛滝線乗場 8:25

コース：岸和田駅(バス)牛滝山バス停～牛滝山第10経  
塚～和泉葛城山第9経塚～五本松～大天井ヶ  
岳～燈明ヶ岳第8経塚～七宝瀧寺～犬鳴山バ  
ス停

地 図：2.5万分の1「内畑」

備 考：歩行距離約14km

※後尾に申込み先連絡先掲載【いずれも締切厳守】

申込み：7月13日(水)迄(担当：永井 和)

### 22-25 沢登り例会

大峰「前鬼川」(中級)

日 時：7月24日(日)

集 合：車利用のため参加者に後日連絡します。

地 図：2.5万分の1「釈迦ヶ岳」

備 考：詳細は申込者に連絡します。

申込み：7月8日(金)迄(担当：中久保忠伸)

### 22-26 第8回ヒマラヤ登山塾

「極地法とアルパインスタイルの山 マッシュャブルム  
～ブロードピーク」

日 時：7月24日(日)

開催時間：15:00～17:00

開催場所：大阪梅田第2ビルB4(ロッジ大阪店地下)

申込み：7月14日(木)迄(担当：重廣恒夫)

### 22-27 月例会(7月)

「Kobe Walking Society 背山ルートを巡る」

日 時：7月30日(土)

集 合：JR元町駅 9:00

コース：元町駅～燈籠茶屋～善助茶屋跡～再度山～鍋  
蓋山～菊水山～鈴蘭台駅

地 図：2.5万分の1「神戸首部」

備 考：歩行距離約10km

申込み：7月22日(金)迄(担当：野村 康)

## 22-28 夏山合宿

「北アルプス・穂高岳」

日 時：8月13日(土)～16日(火)

集 合：8月13日 上高地13:00

コース：8月13日 上高地～横尾

8月14日 横尾～涸沢

8月15日 涸沢ベースで北穂東稜または北穂  
奥穂縦走

8月16日 涸沢～上高地

地 図：2.5万分の1「穂高岳」

備 考：テント泊

申込み：6月30日(木)迄(担当：茂木完治)

## 22-29 第11回関西のアルプス踏査

「多紀アルプス」

日 時：8月14日(日)

集 合：JR福知山線篠山口駅 9:10

コース：大たわ手前～小金ヶ嶽～大たわ～三嶽～西ヶ  
嶽～栗柄口

地 図：2.5万分の1「村雲」「宮田」

備 考：雨天決行(但し、当該地域に6:00に警報等が  
出た場合は中止)

申込み：8月7日(日)迄(担当：重廣恒夫)

## 22-30 月例会(8月)

「摩耶山で1千万ドルの夜景を楽しむ ナイトハイク」

日 時：8月21日(日)

集 合：ハーブ園山頂駅 17:30

コース：ハーブ園山頂駅～天狗道～摩耶山～旧摩耶道  
～新神戸駅

地 図：2.5万分の1「神戸首部」

備 考：雨天中止

上り約1時間30分、下り約2時間で新神戸駅  
21:40着予定

暗闇の中をヘッドランプで歩く体験

申込み：8月11日(木)迄(担当：黒田記代)

## 22-31 第15回山岳古道調査

大峰「前鬼古道」1回目

日 時：8月27日(土)～29日(月)

前鬼小仲坊泊

地 図：2.5万分の1「釈迦ヶ岳」「池原」

備 考：下北山村から十津川村へ大峰山脈を横断する  
古道を調査します。

一泊のみの参加可

詳細は申込者に連絡します。

申込み：8月14日(日)迄(担当：永井 和)

## 22-32 第9回ヒマラヤ登山塾

# ◎ スケッチ同好会 ◎

## 【案 内】

### 第49回

日 時：2022年7月11日(月)

行き先：藤田邸跡公園及び大川沿い

集 合：JR東西線(大阪城公園北詰)3番出口  
午前10時30分

申 込：2022年7月4日(月)前日までにご連絡下さい。  
高木知子 (Email) tttakagi777t@gmail.com

備 考：雨天中止(参加者には前日に連絡)

### 第50回

日 時：2022年9月12日(月)

行き先：武田尾武庫川溪谷

集 合：JR武田尾駅改札口 午前10時

申 込：2022年9月5日(月)までにご連絡下さい。  
横山規江 (携帯)090-7112-1658  
(Email) noriesam2010@docomo.ne.jp

備 考：雨天中止(参加者には前日に連絡)

## 【報 告】

### 第47回 長岡天満宮

日 時：2022年3月14日(月)

参加者：岩崎しのぶ、浦上芳啓、岡田輝子、金井良碩、  
久保和恵、河野直子、薦田佳一、高木知子、  
田頭夏子、播戸日出生、宮野章、横山規江、  
中島隆 計13名



長岡天満宮 梅林 画：河野直子

「衛星生中継チョモランマ交差縦走」

日 時：8月28日(日)

開催時間：15:00～17:00

開催場所：大阪梅田第2ビルB4(ロッジ大阪店地下)

申込み：8月18日(木)迄(担当：重廣恒夫)

### 22-33 月例会(9月)

「箕面周辺の山巡り」

六個山～天上ヶ岳～堂屋敷～鉢伏山～箕面

日 時：9月10日(土)

集 合：阪急箕面駅改札口前 8:30

コース：箕面駅～六個山～ようらく台～天上ヶ岳～△  
堂屋敷～鉢伏山～箕面滝～箕面駅

地 図：2.5万分の1「広根」

備 考：健脚向き

歩行距離約18km 歩行時間約7時間

申込み：9月3日(土)迄(担当：山内幸子)

### 22-34 沢登り例会

台高「月出川支流ワサビ谷」

日 時：9月11日(日)

集 合：車利用のため参加者に後日連絡します。

地 図：2.5万分の1「高見山」

備 考：詳細は申込者に個別連絡します。

申込み：8月26日(金)迄(担当：中久保忠伸)

### 22-35 第12回関西のアルプス踏査

「御津アルプス」

日 時：9月11日(日)

集 合：JR山陽本線竜野駅 9:30

コース：石見神社～X山～Y山～Z山～鳩が峰～室津  
港

地 図：2.5万分の1「網干」

備 考：雨天決行(但し、当該地域に6:00に警報等が  
出た場合は中止)

申込み：9月4日(日)迄(担当：重廣恒夫)

### 22-36 第16回山岳古道調査

「葛城修験の道」石寺跡第20経塚

日 時：9月17日(土)

集 合：JR和歌山線五條駅 9:05

コース：五條駅(タクシー)草谷寺～高天岸野神社～北  
山937.6m～久留野峠～伏見峠～石寺跡第20  
経塚～高宮廃寺跡佐味⇒御所駅

地 図：2.5万分の1「五條」

備 考：歩行距離約12km 健脚向き(藪漕ぎあり)

申込み：9月7日(水)迄(担当：永井 和)

### 22-37 第17回山岳古道調査

大峰「前鬼古道」2回目

日 時：9月21日(水)～23日(金)

地 図：2.5万分の1「釈迦ヶ岳」「池原」「辻堂」「風屋」

備 考：テント泊。

詳細は申込者に知らせます。

申込み：9月5日(月)迄(担当：永井 和)

### 22-38 クライミング初級

「六甲・蓬莱峡」

日 時：9月22日(木)

集 合：阪急宝塚駅 8:30

装 備：ハーネス、ヘルメット、登攀具、クライミン  
グシューズなど

申込み：9月15日(木)迄(担当：江村俊也)

### 22-39 六甲山を歩く

「丹生山系歴史の道を歩く」

日 時：9月24日(土)

集 合：神戸電鉄箕谷駅前バス停 9:30

コース：箕谷駅～衝原～義経道～丹生山～帝釈山～岩  
谷峠～稚子ヶ墓山～肘曲り～箕谷駅

地 図：2.5万分の1「淡河」「有馬」

## 「山行ひろば」開催案内

支部ルームに集まり、登りたい山の話を楽しみましょう。

会員間の交流を図る場としてご利用下さい。

7月27日(水)、9月28日(水)

支部ルーム18:30～20:30

(ネットでも同時開催、希望者は茂木完治まで)

「山行ひろば」報告

3月30日(水)19:00～20:30

豊田哲也さんが北鎌尾根から槍ヶ岳に登った報告  
をしました。

【出席者】江村俊也、中久保忠伸、辻和雄、永井和、  
豊田哲也、黒田記代、岡田輝子、茂木完治、中村三佳、  
野村康、井川宏彰、立野里織、竹中雅幸、深澤優子、  
小黑節郎 計15名

備考：歩行距離約13km 歩行時間約6時間

申込み：9月17日(土)迄(担当：松仲史朗)

### 22-40 第10回ヒマラヤ登山塾

「日中国交回復20周年の山 ナムチャバルワ」

日時：9月25日(日)

開催時間：15:00～17:00

開催場所：大阪梅田第2ビルB4(ロッジ大阪店地下)

申込み：9月15日(木)迄(担当：重廣恒夫)

### 22-41 ゆるやか山行「里山探訪2」歴史と文化を訪ねて

「大住谷～東條山865m～池の川谷」

日時：9月29日(木)

集合：南海河内長野駅改札前 9:40

コース：小深～大住谷林道～東條山～池の川谷林道～  
金剛山ロープウェイ前

地図：2.5万分の1「岩湧山」「五條」

備考：歩行距離約6km 歩行時間約4時間30分

申込み：9月20日(火)迄(担当：久保和恵)

#### 申込み先一覧

江村俊也	tobi.osaka@me.com
久保和恵	uncletorys05-kazu@nifty.com
黒田記代	kuroda2822@kcn.jp
重廣恒夫	tsuneo.shigehiro@outlook.com
永井 和	nagai.kazu@gmail.com
中久保忠伸	tadanobu3772822@gmail.com
野村 康	n0mura87.32@nifty.com
松仲史朗	mgjqk966@ybb.ne.jp
茂木完治	yib03510@nifty.com
山内幸子	sacchyama2f0710@yk2.so-net.ne.jp
関西支部	kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp

#### 山の日関連行事

### 「山の日講演会」のご案内

無料・一般参加可

日時：8月20日(土)14時開場受付 14時15分開演

演題：「女性で目指す8,000m」

講演者：遠藤京子氏

会場：OIT梅田タワー2階204号室

※会場定員100名のため満席の際はご容赦ください。

## ステップアップ登山教室 一般募集

(会員・準会員・会友も参加可能)

受講料：1回1,500円

※詳細については関西支部ホームページをご覧ください。

10月分は日程が変更になる可能性がありますので、随時ご確認下さい。

・登山教室座学 8月6日(土)

・初級(登山に必要な知識・技術・体力養成)

7月9日(土) 出灰～ボンボン山～釈迦岳～奥海印寺

9月10日(土) 榎田校前～黒柄岳～烏ヶ岳～勝手坂～  
榎田校前

10月2日(日) 榎田校前～明智丘道～金毘羅山～高ヶ  
尾山～萩谷～上ノ口

・中級(初歩の沢歩き、岩場の通過と登攀具の使用)

7月3日(日) 阪急六甲駅～日柳川～長峰山～六甲駅

9月4日(日) 金剛登山口～ツツジオ谷～金剛山～文  
殊尾～ロープウェイ前

10月1日(土) 出灰～不動岩左俣～ボンボン山～本山  
寺古道～神峰山口

・上級(初歩の岩登り)

7月7日(木) 六甲・ゲートロック

9月8日(木) 六甲・キャスルウォール

10月6日(木) 京都北山・金毘羅

## 「リーダー養成講習会」のご案内

7月16日(土) 実技

開催時間：15:00～17:00

開催場所：大阪梅田第2ビルB4

(ロッジ大阪店地下)

担当：重廣恒夫

8月7日(日) 実技

開催場所：六甲山

担当：重廣恒夫

9月3日(土) 座学

開催時間：15:00～17:00

開催場所：大阪梅田第2ビルB4

(ロッジ大阪店地下)

担当：重廣恒夫



## 2022年7月～9月 自然保護行事案内

### 1. 「日本山岳会関西支部 本山寺山の森」森づくり活動 (本山寺山森林づくりの会活動)

活動日：7月7日(木)、7月17日(日)、7月24日(日)、  
8月4日(木)、8月11日(木)、8月21日(日)、  
9月1日(木)、9月8日(木)、9月18日(日)、  
9月29日(木)

作業内容：倒木処理、森床整備、常緑広葉樹除伐、杭  
止棚積、歩道保全など

集 合：JR京都線高視駅北 アルプラザ前 8時40分

●体験作業、森林観察、入会歓迎です

### 2. 東お多福山スキ草原復元活動 (東お多福山草原保 全・再生研究会活動)

活動日：7月13日(水)、9月28日(水)

予備日：雨天など中止の場合、7月20日(水)

作業内容：ネザサ刈払い

集 合：JR神戸線芦屋駅南口 8時30分

### 3. 森林観察会

●本山寺山の森観察・体験参加・見学

期日・集合は、本山寺山森林づくりの会活動日と同じ

●東お多福山観察会

期 日：7月28日(木)、8月20日(土)、9月22日(木)

集 合：東お多福山登山口バス停 9時

#### 問い合わせ・申込み先

斧田一陽(全般)

☎/FAX 072-633-6556、090-4037-4542

武田壽夫(本山寺山の森) ☎090-2042-9101

田島聖子(東お多福山活動、観察会) ☎078-411-3837

締切：開催日の2週間前まで

### 登山計画書(届)の提出を！

遭難対策として登山計画書を提出してください。

計画書の作成は、より豊かな山登りへの第一歩です。

- ・個人山行を含む全ての登山や日帰りハイキング
- ・緊急連絡先(留守本部)は家族でも可
- ・出発の直前でも提出可
- ・やむをえない場合は未完成でも可

■提出先：関西支部安全委員会

①メール：keikakukansai@yahoo.co.jp

②FAX：0742-48-5946 黒田記代

③郵送：〒630-8034奈良市五条西1-29-4

黒田記代

※警察署等へは、別途提出してください。

### 「夏季懇親会」のご案内

日 時：8月20日(土)16:30～18:30

場 所：ニュートーキョー第1生命ビル店

北区梅田1-8-17第1生命ビル地下2階

電話06-6312-7525

会 費：4,000円

※申込は同封ハガキに63円切手を貼って8月1日迄に  
申込下さい。氏名・メールアドレス・電話番号をお  
書き添え下さい。(必須)

※2日前迄に連絡なく欠席された場合は相当の金額  
を頂戴します。

※連絡先：行事担当 豊田哲也 電話090-6433-3108



[山岳雑誌] 山と人、時代をつなぐ **岳人**

特別編集 **夏山 2022** 発売中  
日本アルプスの名峰・名ルート



特別価格:1,200円(税込)

★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

▶ 年間購読がおすすめ 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

通常価格  
12冊

10,560円(税抜)  
11,616円(税込)

年間購読  
12冊

9,680円(税抜)  
10,648円(税込)

1冊分  
おトク!

年間購読のお申し込みはこちらから!▶▶▶

<https://www.gakujin.jp/>



全国の  
モンベルストア  
でも受付中!

お問い合わせ  
モンベルポスト



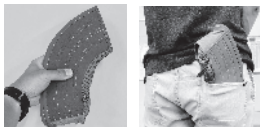
0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

**SUNDAY**  
AFTERNOONS™



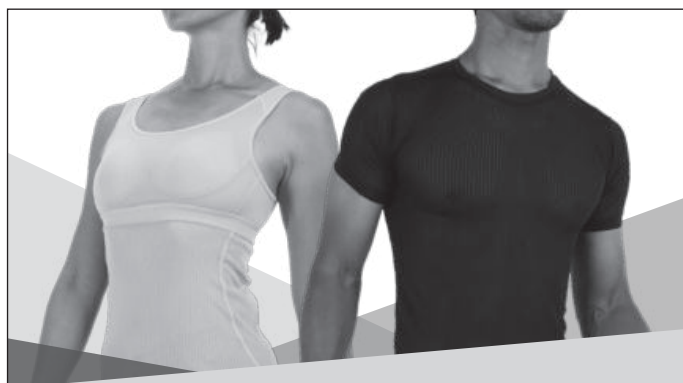
- ★UPF50+で紫外線を  
しっかりカット!
- ★畳めるツバでコンパクトに。  
パンツのポケットでも、  
ザックの間隙でも!



[カラー] 全7色  
[サイズ] S/M (54~58cm),  
M/L (58~62cm)  
[重量] 73.7g

ウルトラアドベンチャーハット ¥4,950(税込)

輸入元:(株)ケンコー社 TEL:06-6374-2788



この1枚が、登山を変える。

**DRY LAYER®**

finetrack®

ドライレイヤー 検索

〈編集後記〉

☆新型コロナウイルスの流行はなかなか収まりませんが、自粛等の要請が緩和され、山へもようやく気兼ねなく出かけられるようになったのは、支部報に寄せられた報告がびっくりするくらい増えたことで実感できます。その一方で支部報のページが増えるのは嬉しいやら頭が痛いやら……。 (加藤)

第188号 2022(令和4)年6月10日 発行

発行所 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22

梅田東ビル 3階 304号室

公益社団法人 日本山岳会関西支部

e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp

郵便振替口座 00930-6-55950

発行者 茂木完治

編集 加藤芳樹 中村三佳

制作 株式会社 双陽社 大阪市北区堂島2-2-28



私たちは  
人と自然をつなぐ道具を  
提案します。

**IWATANI-PRIMUS**

イワタニ・プリムス株式会社

[www.iwatani-primus.co.jp](http://www.iwatani-primus.co.jp)

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-12-20